

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学 校 目 標】	「寄り添い」「粘り強い」教育を実践し、生徒の夢をサポートする。
【育みたい力】	1 自分の中にある力に気づき、伸ばすとともに、一つのことを最後までやり抜く心を育む。 2 多様な個性をもつ生徒が、互いに尊重し合う心を育む。 3 キャリア教育やボランティア活動を通して、健全な社会観や職業観を育む。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と「授業改善」 (1) 基礎学力の定着 ア 1年次、国数英はモジュール授業（毎日30分授業）を行うことにより基礎学力の定着を図る。 イ 4つの系列（マリンアドベンチャー、アクティブIT、ソーシャルケア、クロスカルチャー）の内容の充実を図る。 ※ (生徒)学校教育自己診断「モジュール授業に関する項目」の肯定的評価を令和9年度には90%以上に。(R4 86.5%, R5 81.9%, R6 88.5%) ※ (生徒)学校教育自己診断「系列に関する項目」の肯定的評価を令和9年度には90%以上に。(R4 79.9%, R5 80.6%, R6 88.6%) (2) 学習活動の充実 ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、自ら学び考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。 イ 各授業でICT機器を活用し、すべての生徒がわかりやすい授業づくりに取り組む。 ※ 授業アンケート「授業展開」の平均を令和9年度には3.50以上に。(R4 3.33, R5 3.35, R6 3.45) ※ 授業アンケート「生徒意識1」及び「生徒意識2」の平均を令和9年度にはそれぞれ3.45以上に。(R4 3.22 3.24, R5 3.19 3.25, R6 3.40 3.38) ※ (生徒)学校教育自己診断「視聴覚機器活用の項目」の肯定的評価を令和9年度には85%以上に。(R4 72.1%, R5 74.2%, R6 80.4%) ※ (生徒)学校教育自己診断「1人1台端末活用の項目」の肯定的評価を令和9年度には90%以上に。(R4 42.1%, R5 58.5%, R6 85.3%)
2 「課題発見解決能力」「コミュニケーション能力」「社会で生き抜き社会をよくする力」の育成 (授業の中でこれらの力を育むのは当然として、授業以外での取組みを(1)～(3)に記載) (1) 特別活動の充実 ア 体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事の充実を図る。 イ 部活動・同好会の活性化を図る。 ※ 体育祭、文化祭、山海人プロジェクトの事後アンケートの参加生徒の肯定的評価90%以上を維持。(R6 95.7% 95.4% 96.8%) ※ 部活動・同好会の加入率（加入延べ人数／在籍数、9月時点）を令和9年度には50%以上に。(新規) (2) 寄り添う生徒指導と人権教育の推進 ア 個々の生徒の状況に応じた「寄り添い」「粘り強い」生徒指導を実践する。 イ 違いを認め、思いやりの心を育む人権教育を実践する。 ※ (生徒)学校教育自己診断「きまりがあって厳しいけれど、自分のためになっている」の肯定的評価70%以上を維持。(R4 66.5%, R5 70.1%, R6 78.2%) ※ (保護者)学校教育自己診断「子どものまちがった行動を適切に指導してくれる」の肯定的評価70%以上を維持。(R4 73.7%, R5 77.3%, R6 70.4%) ※ (生徒)学校教育自己診断「ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」の肯定的評価を令和9年度には85%以上に。(R4 73.6%, R5 74.6%, R6 84.7%) (3) キャリア教育の充実 ア 進路HRやインターンシップ等を通じて、生徒が進路について主体的に考えるように働きかける。 イ 第一希望の進路実現に向けて指導・支援する。 ※ (生徒)学校教育自己診断「進路についての学習をしっかりと行っている」の肯定的評価を令和9年度には90%以上に。(R4 76.6%, R5 78.1%, R6 89.8%) ※ 系統的なキャリア教育により、進学・就職を希望する生徒に対して進路決定者を令和9年度には90%以上に。(新規)
3 「支援教育」と「生徒相談」の充実 (1) 生徒の支援・相談体制の充実 ア 高校生活支援カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無に関わらず困り感のある生徒の支援を行う。 ※ 支援教育・生徒相談に関する定例会議を年間25回以上行い、必要に応じて、特別支援を検討する会議を行う。(新規) (2) 通級指導教室の充実 ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。 ※ 通級指導アンケート「通級指導を受けた感想」の肯定的評価90%以上を維持(R6 100%) (3) 少人数クラスの充実 ア 様々な体験を通してコミュニケーション能力を高め、2年次以降の高校生活につなげられるようにする。 ※ 少人数クラスアンケート「少人数クラスを希望したことについて」の肯定的評価を生徒・保護者ともそれぞれ令和9年度には90%以上に。(新規) (4) 生徒相談の充実 ア 専門人材と連携した生徒相談の充実と環境整備により、安全で安心な学校づくりをめざす。 ※ (生徒)学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定的評価を令和9年度には75%以上に。(新規) (5) 不登校や中途転退学の防止 ア 2人担任、1年次25人学級、中退防止会議等により、困り感のある生徒を早期発見し全教職員が共有することで、不登校や中途転退学者を減少させる。 イ 学校経営推進費等を活用した魅力的な授業を開発する。 ※ 欠席率、不登校率を令和9年度にはそれぞれ9%以下、17%以下に。(R4 12.7%, R5 15.6%, R6 10.6%)、(R4 29.0%, R5 38.0%, R6 18.6%) ※ 中途転退学率を令和9年度には8%以下に。(R4 10.2%, R5 16.1%, R6 5.5%) ※ 学校経営推進費を受けた年度(R7)事業計画名「生徒の主体的に学ぶ力と創造力を育むプロジェクト」
4 「地域連携」の充実と「広報活動」の推進 (1) 地域連携の充実 ア 4つの系列・各教科・総合的な探究の時間などの授業において、地域と連携した授業を行う。 イ 地域活動等の希望者参加型行事の充実を図る。 ※ (生徒)学校教育自己診断「地域連携を活用した体験的な取組みに関する項目」の肯定的評価を令和9年度には90%以上に。(R6 88.7%) ※ 地域連携コーディネーターと教職員が連携し、地域資源の活用や地域と連携した授業を開発する。 ※ 地域から依頼を受けた行事に生徒会、部活動、有志が参加し地域貢献する。 ※ 希望者参加型行事の事後アンケートの肯定的評価の平均95%を維持。(R6 100%) (2) 広報活動の推進 ア 校内、校外において行われる学校説明会および学校ホームページ「enjoy 岬」において学校の取組みを発信する。 ※ 校内でオープンスクール、支援教育に関する学校説明会を行い、校外の学校説明会に積極的に参加し岬高校の取組みを広く紹介する。 ※ 学校ホームページ「enjoy 岬」の記事掲載70回以上を維持する。(R4 39回, R5 52回, R6 82回)
5 「人材育成」と「働き方改革」 (1) 教職員の組織的・継続的な人材育成 ア 教職員全体の資質向上のため、外部講師による講演や校内研修会を行い、初任者に対しては管理職やミドルリーダーを講師とした校内初任者研修を実施する。 ※ (教員)学校教育自己診断「校内研修は役立つような内容になっている」の肯定的評価85%以上を維持。(R4 71.4%, R5 85.7%, R6 90.9%) (2) 働き方改革の推進 ア 業務を見直し、会議や情報共有の効率化を図ることで教職員の働き方改革を進める。 イ 全校一斉定時退庁日を徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革を進める。 ※ 月当たり、教職員の「時間外在校等時間」の平均を令和9年度には20時間以下に。(R4 29.0時間 R5 28.1時間 R6 23.9時間) ※ 月当たり、「時間外在校等時間」45時間以上の教職員を令和9年度には4人以内に。(R4 22.0人 R5 7.7人 R6 4.1人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学校生活全般】 - 生徒の「学校へ行くのが楽しい」という回答は昨年からやや減少し78.9%となった。一昨年と比較すると10ポイント以上高く、令和6年度にステップスクールへ改編して以降、高い水準を維持している。文化祭や体育祭などの行事の充実・活性化（肯定的評価：82.4%、78.2%）、地域連携を取り入れた体験的な取組み（肯定的評価：84.3%）などが要因の一つと考えられる。一方で約20%の生徒は「楽しくない」と回答しており、この結果を真摯に受け止め、今後の教育活動を一層充実させる必要がある。 - 保護者の「子どもは岬高校へ行くのを楽しみにしている」は74.8%と上昇した。生徒の肯定的評価と同水準であり、家庭でも学校のことが共通の話題になっていると考えられる。 - 生徒の「ステップスクール（1・2年生）、エンパワメントスクール（3年生）に来てよかった」は87.7%と上昇した。オープンスクールや学校説明会などで岬高校の取組みを理解した上で入学する生徒が増えていること、また入学後に充実した学校生活を送っていることが要因と考えられる。 - 生徒の「先生は、他の人に知られたくない秘密や成績などの内容について、プライバシーを守っている」の肯定的評価は78.0%と大きく減少した。個人情報に関する事案があったためである。教職員一人ひとりが個人情報の取扱いに関する意識を高め、校内体制を見直し、このような事案が二度と起こらないよう徹底する。 【学習指導】 - 生徒の「1年生モジュール授業（国・数・英の毎日30分授業）」に関する肯定的評価は89.0%と高水準を維持している。 - 生徒の「2・3年生の系列・コースの科目（授業）」に関する肯定的評価は84.3%とやや減少したものの高水準を維持している。地域と連携した取組みの開発・充実を図り、ステップスクールとして特色ある授業を展開する。 - 生徒の「コンピュータや電子黒板などの視聴覚機器が授業でよく使われている」の肯定的評価は81.9%、「1人1台端末を積極的に活用している」の肯定的評価は84.5%と高水準を維持している。生徒にとって「分かる授業」をめざし、各教員が積極的にこれらの機器を活用した結果と考えられる。 【進路指導】 - 生徒の「岬高校では、進路についての学習をしっかりと行ってくれる」の肯定的評価は88.1%と高水準を維持している。3年間を通じた進路指導（1年次「知る」、2年次「探る」、3年次「叶える」）のもとで、校内外で様々な取組みを行った結果と考えられる。 - 保護者の「岬高校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定的評価は85.5%と昨年度より約10ポイント上昇した。また「岬高校は、進路に関して家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」の肯定的評価は76.7%と昨年度より約5ポイント上昇した。3年生での進路指導はもちろん、1・2年生でのジョブチャレンジやインターンシップ、保護者対象の進路行事や情報発信の成果と考えられる。 【生徒指導】 - 生徒の「岬高校にはいろいろきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的評価は76.2%、「遅刻指導があるので、自分自身の遅刻が減っていると思う」の肯定的評価は75.0%と昨年度と同水準である。引き続き「寄り添い」「粘り強い」生徒指導を行う。 - 保護者の「岬高校の先生は、子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる」の肯定的評価は76.8%と約6ポイント上昇した。また「岬高校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」の肯定的評価は82.6%と約6ポイント上昇した。保護者と教員が常に協力・連携し、生徒指導を行っている結果と考えられる。 - 生徒の「岬高校の先生は、自分が努力したことを認めてくれたり、ほめてくれたりする」の肯定的評価は90.0%と上昇した。何事にも前向きに頑張る生徒が増えたこと、そして担任はもちろん、その他多くの教員が生徒を見守っていることが要因と考えられる。 【支援体制】 - 生徒の「岬高校ではいじめやそれに近いことが起こったときにきちんと対応してくれる」の肯定的評価は76.1%と上昇した。引き続き、いじめ事案の未然防止、また事案発生時の迅速な対応ができる組織づくりに尽力する。 - 生徒の「担任の先生以外にも、保健室や相談室、副担任や他クラスの担任など、気軽に相談できる先生がいる」は76.9%と約4ポイント上昇した。各教職員が積極的に生徒に関わっていること、またステップスクールへの改編により、スクールカウンセラーの常駐、スクールソーシャルワーカーやキャリア教育コーディネーターの来校回数が府下最多となり、外部専門人材と教員が連携して生徒対応に当たっていることが要因と考えられる。 【防災教育】 - 生徒の「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」の肯定的評価90.0%と10ポイント以上大きく上昇した。避難訓練の他に防災訓練HR（災害時安否確認フォーム）を実施したことが要因と考えられる。 【部活動】 - 生徒の「部活動に入っていますか？」では「1年からずっと」「途中から今まで」を合わせて31.1%とやや減少した。部活動への入部を促すために生徒会主催の部活動体験会を実施したが、加入率の向上にはつながらなかった。活気ある学校づくりをめざし、引き続き部活動の活性化を推進する。 【施設・設備面】 - 生徒の「学校図書館を利用していますか？」では「利用していない」が77.8%と利用率の低い結果となった。生徒が現在求めている書籍、図書館の開放時間、設備面などを見直し、利用率向上に向けた工夫を行う。 【PTA活動】 - 保護者の「PTA活動に参加したことがある」の肯定的評価は18.1%と昨年度よりやや上昇したものの依然低い状況である。文化祭や体育祭、PTA主催のスポーツ大会、社会見学会などへの参加を促すため、PTA役員と連携し、情報発信を強化する。	第1回（5/23） ○地域連携・働き方改革に関して - 地域から岬高校はどのように見られているか。 - 地域との連携は授業時間以外にも行うことが多いと思う。休日や夜の遅い時間などに勤務する教員も多いのではないか。 ○人材育成に関して （初任者の教員に対しての質問）大阪府の教員になってよかったか。 第2回（10/14） ○授業見学・校内見学を実施し、その後の意見 - 中学校と異なり教科の名前がいろいろ（科学と人間生活、考える時間等）で、教材づくりが大変そう。教員1人の科目の種類も多い。その中で生徒の「生きる力」を伸ばそうとしていると思う。 - タブレット端末を使っている授業が多い。調べ学習やスライド提示等。 - 教員1人当たりの持ち時数はどれくらいか。 - 授業準備の時間がとれているか。OECDの調査では、日本の教員の労働時間は長いが、授業・授業準備の時間は少ない。他の仕事の時間が多い。もっと授業のための時間をしっかりとってほしい。辛口なことを言えば、穴埋めのプリントでの授業はさびしい。理想的にはプリントに頼らずに考える力を引き出すような授業を期待したい。 - 生徒たちが授業に参加しようとする姿勢がみられる。先生たちの工夫もあると思う。生徒どうしの班で取り組むような授業があってもよいのではないか。 - 生徒指導にかけている時間はどれくらいか。 第3回（1/30） ○進路指導について - 生徒のコミュニケーション能力を高めるにはどうすればよいのか。 ○生徒指導について - コミュニケーション能力がつくことで問題事象は減るのか。 ○地域とのつながりについて - 登下校をよく見かける。皆仲がよさそうに和気あいあいとした雰囲気です登校している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 「確かな学力」の育成と「授業改善」	(1) 基礎学力の定着 ア モジュール授業による基礎学力の定着	(1) 基礎学力の定着 ア 1 年次、国数英はモジュール授業（毎日 30 分授業）を行うことにより基礎学力の定着を図る。	(1) 基礎学力の定着 ア ・(生徒)学校教育自己診断「モジュール授業に関する項目」の肯定的評価を 89%以上。[88. 5%]	(1) 基礎学力の定着 ア 「モジュール授業に関する項目」の肯定的評価 89. 0%と高い。今後も維持する。(○)
	イ 4 つの系列の内容の充実	イ 地域連携コーディネーターと連携し、地域資源や地域人材を活用した系列授業を継続・開発し内容の充実を図る。	イ ・(生徒)学校教育自己診断「系列に関する項目」の肯定的評価を 89%以上。[88. 6%]	イ 「系列に関する項目」の肯定的評価 90. 5%と高い。引き続き、地域と連携した特色ある授業を展開する。(◎)
	(2) 学習活動の充実 ア 「わかる」「楽しい」授業展開	(2) 学習活動の充実 ア 全教員が、以下の 5 項目を念頭に授業を進める。 ①開始時は学習環境を整え、学習目標を明示する ②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く ③メリハリ・テンポ・リズムのある授業展開 ④「考える」「説明を聞く」「板書する」を明確に ⑤具体的にほめる	(2) 学習活動の充実 ア ・授業アンケート「授業展開」の平均を 3. 46 以上。[3. 45] ・授業アンケート「生徒意識 1」及び「生徒意識 2」の平均をそれぞれ 3. 40 以上。[3. 40 3. 38]	(2) 学習活動の充実 ア 「授業展開」3. 46 (○) 「生徒意識 1」3. 31 (△) 「生徒意識 2」3. 36 (△) 各教員がわかりやすい授業を行い「授業展開」は目標を達成した。一方で、「生徒意識(興味・関心、知識・技能)」に関しては昨年度より低くなった。各授業で、生徒自身が成長を感じられる授業を展開する。
	イ ICT 機器の活用	イ 視聴覚機器や 1 人 1 台端末を活用し、すべての生徒がわかりやすい授業づくりに取り組む	イ ・(生徒)学校教育自己診断「視聴覚機器活用の項目」の肯定的評価を 82%以上。[80. 4%] ・(生徒)学校教育自己診断「1 人 1 台端末活用の項目」の肯定的評価を 87%以上。[85. 3%]	イ 「視聴覚機器活用の項目」の肯定的評価 81. 9% (○) 「1 人 1 台端末活用の項目」の肯定的評価 84. 5% (○) わかる授業をめざして、活用の推進を図る。
2 「課題発見能力」「コミュニケーション能力」「社会で生き抜く社会をよくなる力」の育成	(1) 特別活動の充実 ア 全員参加型行事の充実	(1) 特別活動の充実 ア 様々な行事の企画運営に生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心をもって取り組めるよう工夫する。	(1) 特別活動の充実 ア ・体育祭、文化祭、山海人プロジェクトの事後アンケートの参加生徒の肯定的評価 90% 以上を維持。[95. 7% 95. 4% 96. 8%]	(1) 特別活動の充実 ア 体育祭 95. 3% (○) 文化祭 94. 6% (○) 山海人 P 96. 4% (○) 非常に高い水準を維持。
	イ 部活動・同好会の活性化	イ 勧誘ポスターを掲示する。1 年生に対し 4 月の HR 等で部活動紹介動画を見せ、加入を促す。	イ ・部活動・同好会の加入率（加入延べ人数／在籍数、9 月時点）を 45%以上。[新規]	イ 部活動・同好会の加入率（9 月時点）38. 4% (△) 次年度はさらなる活性化に取り組む。
	(2) 生徒指導と人権教育 ア 寄り添う生徒指導	(2) 生徒指導と人権教育 ア 個々の生徒の状況に応じた「寄り添い」「粘り強い」生徒指導を実践する。	(2) 生徒指導と人権教育 ア ・(生徒)学校教育自己診断「きまりがあって厳しいけれど、自分のためになっている」の肯定的評価 70%以上を維持。[78. 2%] ・(保護者)学校教育自己診断「子どものまちがった行動を適切に指導してくれる」の肯定的評価 70%以上を維持。[70. 4%]	(2) 生徒指導と人権教育 ア (生徒)「きまりがあって厳しいけれど、自分のためになっている」の肯定的評価 76. 2% (○) (保護者)「子どものまちがった行動を適切に指導してくれる」の肯定的評価 76. 8% (◎) 引き続き「寄り添い」「粘り強い」生徒指導を継続する。
	イ 人権教育の推進	イ 人権について学び、考える機会を設け、違いを認め、思いやりの心を育む人権教育を実践する。	イ ・(生徒)学校教育自己診断「ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」の肯定的評価を 85%以上。[84. 7%]	イ 「ちがいを認めあうことの大切さを教えてくれる」の肯定的評価 86. 1% (○) 人権 HR 等を通じて人権意識の高揚を図る。
	(3) キャリア教育の充実 ア 進路意識をもたせる	(3) キャリア教育の充実 ア 進路 HR やインターンシップ等を通じて、生徒が進路について主体的に考えるように働きかける。	(3) キャリア教育の充実 ア ・(生徒)学校教育自己診断「進路についての学習をしっかりと行っている」の肯定的評価を 90%以上。[89. 8%]	(3) キャリア教育の充実 ア 「進路についての学習をしっかりと行っている」の肯定的評価 88. 1%と少し目標を下回ったが高水準を維持。(○)
	イ 進路実現	イ 第一希望の進路実現に向けて面接練習や職場見学等の指導・支援を行う。	イ ・進学・就職を希望する生徒に対して進路決定率を 90%以上。[新規]	イ 進学・就職希望生徒の進路決定率 100%(◎)

府立岬高等学校

3「支援教育」と「生徒相談」の充実	（１）生徒の支援・相談体制の充実 ア 困り感のある生徒の支援	（１）生徒の支援・相談体制の充実 ア 高校生活支援カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無に関わらず困り感のある生徒の支援を行う。	（１）生徒の支援・相談体制の充実 ア ・支援教育・生徒相談に関する定例会議を年間 20 回以上行い、必要に応じて、特別支援を検討する会議を行う。[新規]	（１）生徒の支援・相談体制の充実 ア 支援教育・生徒相談に関する定例会議を 32 回、特別支援を検討する会議を 5 回行った。(◎)
	（２）通級指導教室の充実 ア 自尊感情の育成	（２）通級指導教室の充実 ア 先駆的な取り組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。	（２）通級指導教室の充実 ア ・通級指導アンケート「通級指導を受けた感想」の肯定的評価 90%以上を維持[100%]	（２）通級指導教室の充実 ア 「通級指導を受けた感想」の肯定的評価 100%（○）
	（３）少人数クラスの充実 ア ２年次以降の高校生活へのつなぎ	（３）少人数クラスの充実 ア 様々な体験を通してコミュニケーション能力を高め、２年次以降の高校生活につなげられるようにする。	（３）少人数クラスの充実 ア ・少人数クラスアンケート「少人数クラスを希望したことについて」の肯定的評価を生徒・保護者ともそれぞれ 90%以上。[新規]	（３）少人数クラスの充実 ア 「少人数クラスを希望したことについて」の肯定的評価（生徒）100%、（保護者）100%（○）
	（４）生徒相談の充実 ア 安全で安心な学校づくり	（４）生徒相談の充実 ア 専門人材と連携した生徒相談の充実と環境整備により、安全で安心な学校づくりをめざす。	（４）生徒相談の充実 ア ・（生徒）学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定的評価を 70%以上。[新規]	（４）生徒相談の充実 ア 「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定的評価 76.9%（◎）
	（５）不登校や中途転退学の防止 ア 不登校や中途転退学者の減少 イ 学校経営推進費等を活用した魅力的な授業の開発	（５）不登校や中途転退学の防止 ア ２人担任、１年次 25 人学級、中退防止会議等により、困り感のある生徒を早期発見し全教職員が共有することで、不登校や中途転退学者を減少させる。 イ アクティブ IT 系列の授業においてゲーム機を活用したプログラミング学習を行い、ゲームの作成、発表、意見交換等を行う。	（５）不登校や中途転退学の防止 アイ ・欠席率 11%以下。[10.6%] ・不登校率 19%以下。[18.6%] ・中途転退学率 10%以下。[5.5%] イ アクティブ IT 系列３年「ビジュアルプログラミング」の授業において開発する。	（５）不登校や中途転退学の防止 アイ 欠席率 10.9%（○） 不登校率 24.8%（△） 中途転退学率 4.5%（◎） イ 予定を変更し、３学期より「ビジュアルプログラミング」と「ICT の活用」の授業において実施した。（○）
4「地域連携」の充実と「広報活動」の推進	（１）地域連携の充実 ア 地域と連携した授業づくり	ア ４つの系列・各教科・総合的な探究の時間などの授業において、地域と連携した授業を行う。	ア ・（生徒）学校教育自己診断「地域連携を活用した体験的な取り組みに関する項目」の肯定的評価を 85%以上を維持。[88.7%]	ア 「地域連携を活用した体験的な取り組みに関する項目」の肯定的評価 84.3%（○） 引き続き、地域連携コーディネーターを中心に教職員一丸となって地域と連携した授業を開発する。
	イ 地域活動等の希望者参加型行事の充実 （２）広報活動の推進 ア 岬高校の取り組み発信	イ 参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する。 （２）広報活動の推進 ア 校内、校外において行われる学校説明会および学校ホームページ「enjoy 岬」において学校の取り組みを発信する。	イ ・希望者参加型行事の事後アンケートの肯定的評価の平均 95%を維持。[100%] （２）広報活動の推進 ア ・学校ホームページ「enjoy 岬」の記事掲載 70 回以上を維持。[82 回]	イ 希望者参加型の事後アンケートの肯定的評価 100%（◎） （２）広報活動の推進 ア 「enjoy 岬」の記事掲載回数 76 回（○）
5「人材育成」と「働き方改革」	（１）組織的・継続的な人材育成 ア 校内研修の充実	（１）組織的・継続的な人材育成 ア 教職員全体の資質向上のため、外部講師による講演や校内研修会を行い、初任者に対しては管理職やミドルリーダーを講師とした校内初任者研修を実施する。	（１）組織的・継続的な人材育成 ア ・（教員）学校教育自己診断「校内研修は役立つような内容になっている」の肯定的評価 85%以上を維持。[90.9%]	（１）組織的・継続的な人材育成 ア 「校内研修は役立つような内容になっている」の肯定的評価 82.6%（○）
	（２）働き方改革の推進 ア 業務の見直し等 イ 全校一斉定時退庁日の徹底	（２）働き方改革の推進 ア 各分掌や学年で業務を見直すとともに、会議や情報共有の効率化を図ることで教職員の働き方改革を進める。 イ 全校一斉定時退庁日を徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革を進める。	（２）働き方改革の推進 ア ・月当たり、教職員の「時間外在校等時間」の平均を 25 時間以下。[23.9 時間] イ ・月当たり、「時間外在校等時間」45 時間以上の教職員を 6 人以内。[4.1 人]	（２）働き方改革の推進 ア 月当たり、教職員の「時間外在校等時間」の平均 22.1 時間（○） イ 月当たり、「時間外在校等時間」45 時間以内の教職員 5 人（○）